



やる気の明倫子

目指す学校像 「行きたくなる学校 行かせたくなる学校 明倫」

平成31年度全国学力学習状況調査明倫小考察

平成31年度の全国学力学習状況調査が、4月18日（木）に小学6年生、中学3年生を対象に行われました。夏休み明けに、全国と静岡県の実証結果が公表され、それを受けて小山町でも検討委員会を設けて、分析を進めてきました。本校の分析もまとめられましたので、小山町のリーフレットと個人結果と合わせて本校の成果と課題をまとめた学校だよりを配布させていただきます。学校では課題について、今後の指導で補っていきます。

尚、本調査は下記の目標で実施されています。全国平均をどれだけ上回ったとか本県の全国の順位が何番だったかなどを競う趣旨ではありませんのでご理解ください。よろしくお祈りします。

全国学力学習状況調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校教育の成果と課題を把握し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への指導の充実や学習状況の改善を図る。
- ③上記の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



明倫小全体の傾向



明倫小の6年生の傾向としては、調査実施教科（国語・算数）においては、漢字や計算などの基礎的な力については、問題を読み解くことや、自分の考えを、問題で求めている条件に合わせて記述したりすることが苦手であることが表れています。また、問題を解く時間配分がうまくできなかつたり、無答（解答欄が空欄）のまま終わらせてしまつたりする問題もありました。今後の課題として取り組んでいきたいと思ひます。

教科ごとの成果（○）と課題（●）、今後の対策（※）

①国語

- 漢字を文の中で正しく使うことは、反復学習の成果が表れてきている。
- 解答の選択肢が示されているものについては、的確に選択することができる。



- 話し手の意図や文章の目的に応じて、自分の考えを的確に書き表す力が弱い。
- 初めて接する文章を、限られた時間の中で丁寧に読むことや、要旨をまとめたり要約したりすることが苦手である。

※物語文や意見文の学習では、内容をよく読みながら筆者の考えを理解したり、何度も繰り返し表現したりする場を、授業の中に多く取り入れていく。

※本に親しむ子、読書が好きな子を増やすために、朝読書の時間を活用して本について話したり、国語の読書教材で実際の本を紹介して教室に置いたりして、教室での読書環境を整備する。

②算数

○台形の性質については、理解できていた。

○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることが、よくできていた。

●わり算の性質（きまり）についての理解が浅く、決められた条件の中で記述することができなかった。

●複数の情報を関連付けて論理的に考察することが難しい。情報をどう活用できるかが課題。

※計算のきまりについて、低学年の基礎から確実に積み重ねることができるよう、授業を工夫していく。

※問題の解き方等、お互いに話し合っって考え方を共有できる場を多く設定する。自分だけの考えに固執せず、いろいろな考えに触れ、多様な考え方が持てるようになる場を設定する。

③質問紙（生活の様子）

○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 ○先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う。

○先生は、分かるまで教えてくれていると思う。

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 (95%以上)

○いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う。

○学級みんなで協力して取り組み、うれしかったことがある。

○学校のきまりを守っている。 (90%以上)

●読書は好きですか。

●新聞を読んでいますか。

●地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(50%以下)

※全体的に見て自己肯定感が高いとは言えない。自分に自信が持てるように、子ども同士が互いの良さを認め合う場面を設定していく。

※自分の考えを伝えるのが苦手である。学級や小グループの中で発表の場をたくさん設け、自信をつけていきたい。

最後に

これから10年後、子どもたちが大人になった時代を考えて、学校と家庭が子どもたちにつけたい力を共通理解し、一緒に教育に力を入れていかなければなりません。明倫小職員は一丸となって教育活動を行ってまいりますので、ご協力よろしく申し上げます。

